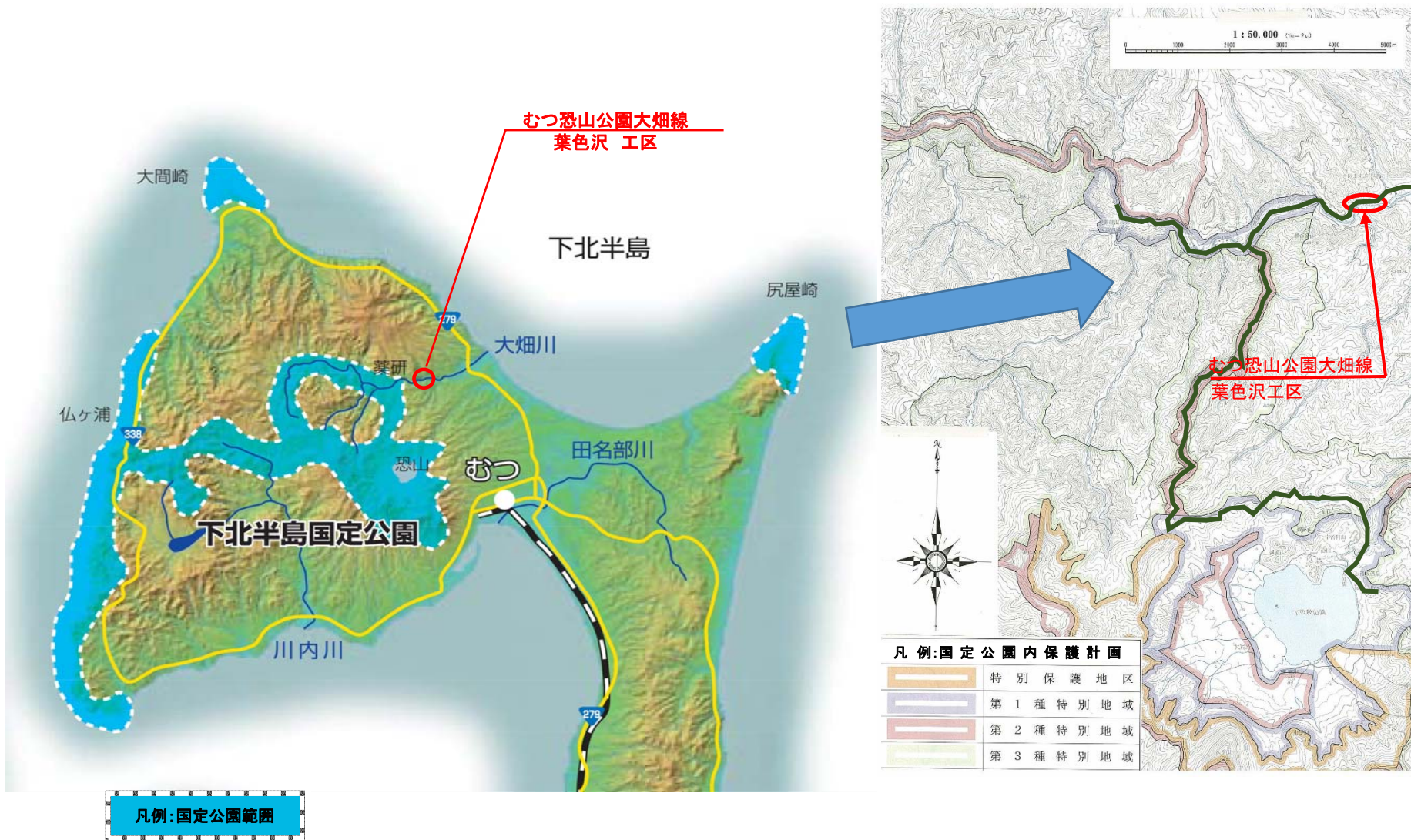


# 下北半島国定公園範囲図

資料 3

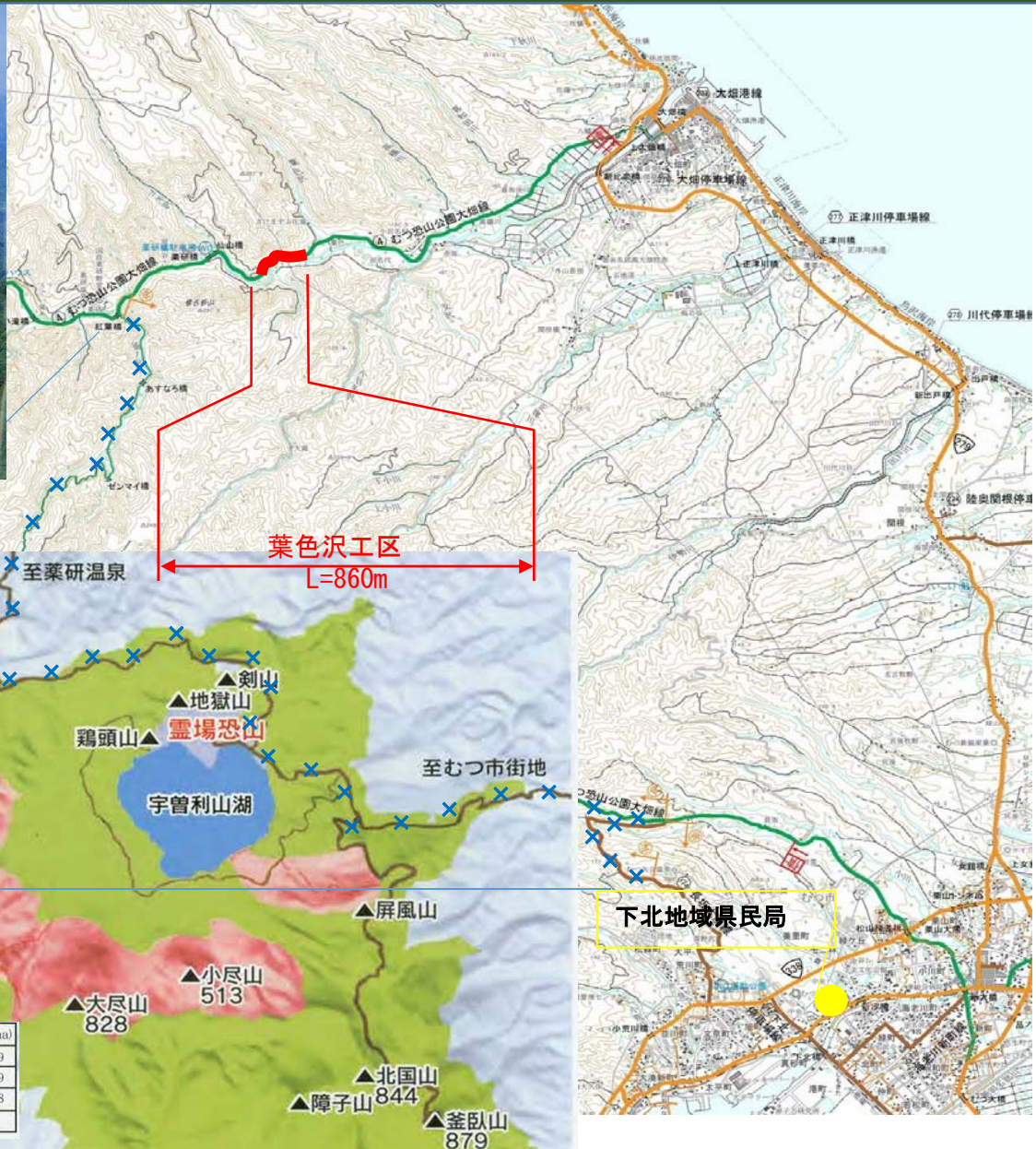
平成27年7月24日  
県土整備部道路課





# 下北半島国定公園範囲図

平成27年7月24日  
県土整備部道路課



凡例	(単位ha)
保存地区: 原生的なすかたの天然林	1,039
保全利用地区: 原生的な天然林を守るための森林	4,499
面積計	5,538
道 路	

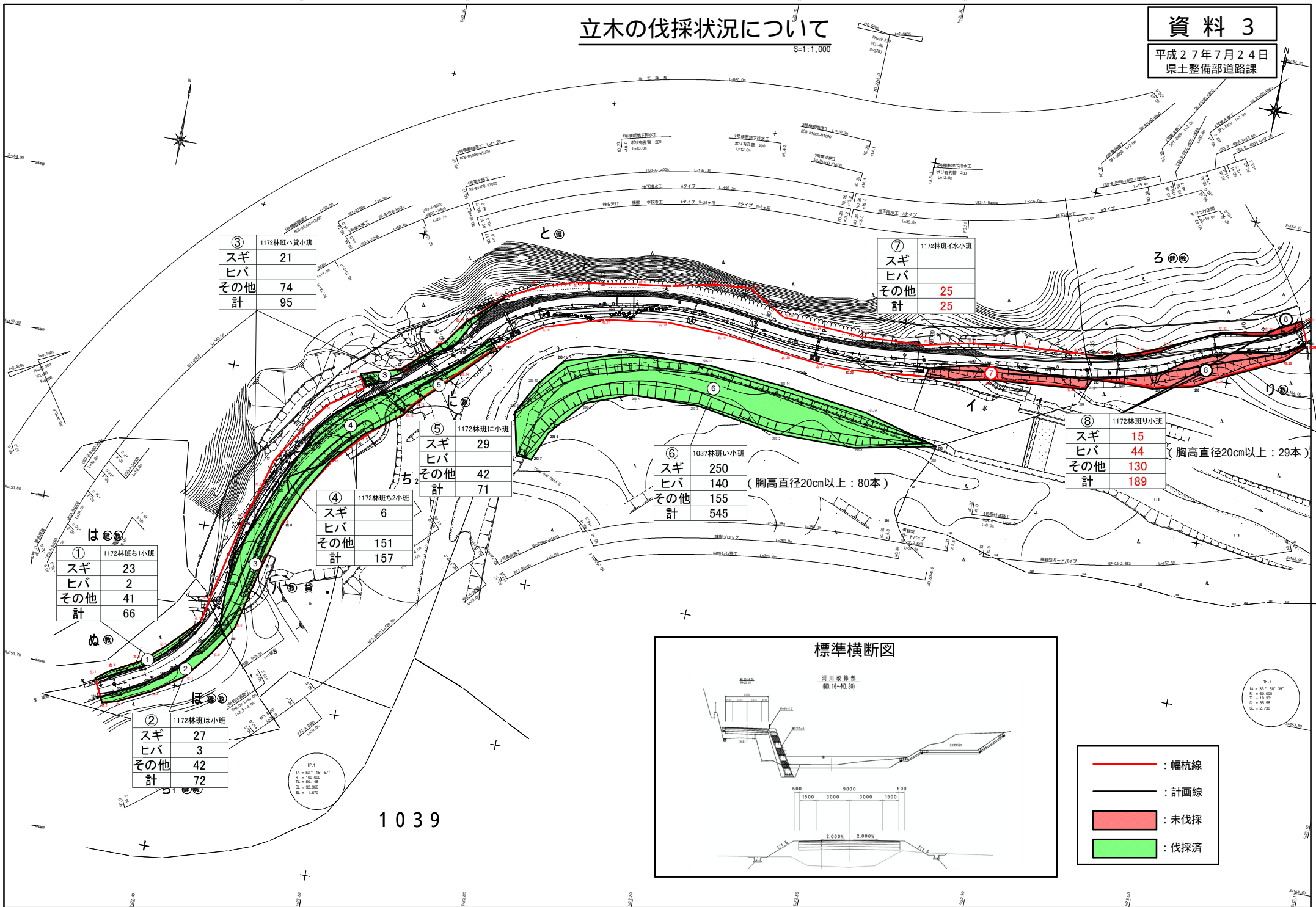


# 立木の伐採状況について

S=1:1,000

## 資料 3

平成27年7月24日  
県土整備部道路課



③	1172林班ハ資小班
スギ	21
ヒバ	
その他	74
計	95

⑦	1172林班イ水小班
スギ	
ヒバ	
その他	25
計	25

⑤	1172林班に小班
スギ	29
ヒバ	
その他	42
計	71

⑥	1037林班い小班
スギ	250
ヒバ	140
その他	155
計	545

(胸高直径20cm以上: 80本)

⑧	1172林班り小班
スギ	15
ヒバ	44
その他	130
計	189

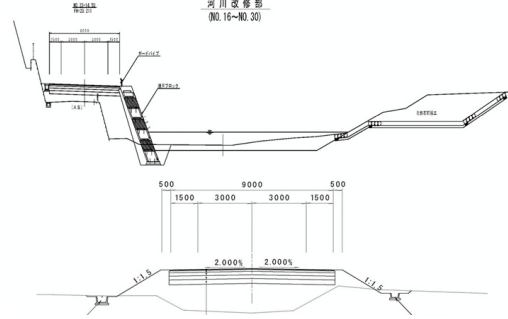
(胸高直径20cm以上: 29本)

④	1172林班ち2小班
スギ	6
ヒバ	
その他	151
計	157

①	1172林班ち1小班
スギ	23
ヒバ	2
その他	41
計	66

②	1172林班ほ小班
スギ	27
ヒバ	3
その他	42
計	72

標準横断面図



— (Red line)	: 幅杭線
— (Black line)	: 計画線
■ (Red)	: 未伐採
■ (Green)	: 伐採済

1039

◆ 調査経緯

年度	工事進捗・調査状況	概要
平成20年度	猛禽類調査を開始	クマタカや他種猛禽類の生息を確認。
平成21年度～	猛禽類調査	クマタカの調査を実施・継続
平成24年度～	猛禽類調査は継続 工事着工	工事着工 法面護岸工、工事用道路工・仮水路工等

既往調査で確認されたクマタカの営巣場所は、全てが「葉色沢ペア」と呼ばれるクマタカペアの営巣中心域（環境省の「ガイドライン」）となっており、発見された巣と計画路線の最短距離は200mとなっている。

営巣中心域内では、人為的改変が繁殖に影響を及ぼす可能性があることから、工事にあたっては慎重な対応（対策）が必要である。



計画路線と巣の関係

◆ クマタカの情報

種の保存法：国内希少野性動植物種

環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠB類

青森県レッドデータブック：A

クマタカは、いずれも高いランクに該当する。

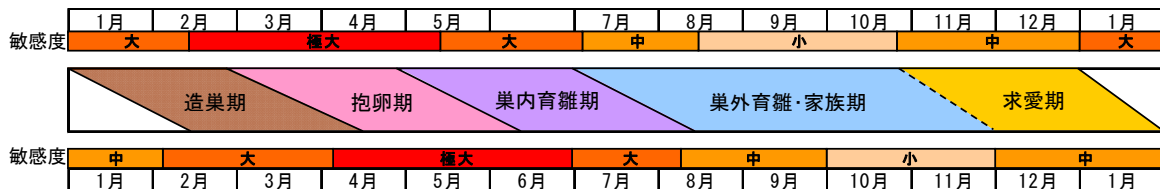


営巣谷から出現して飛翔する葉色沢ペア♂



営巣谷前を飛翔する葉色沢ペア♀

クマタカの繁殖ステージ



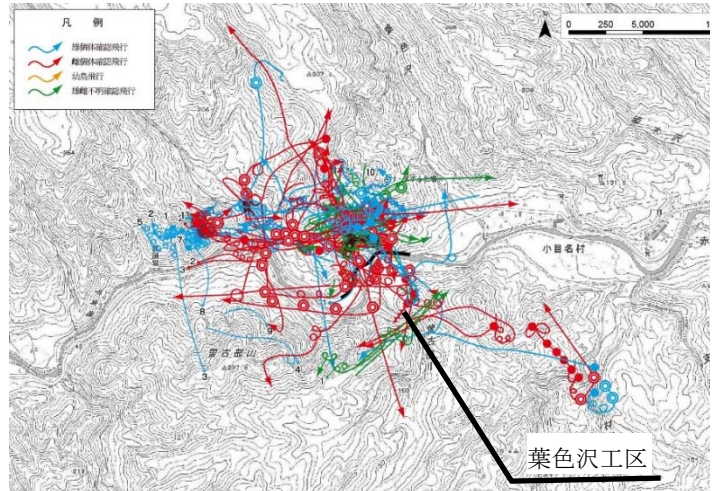
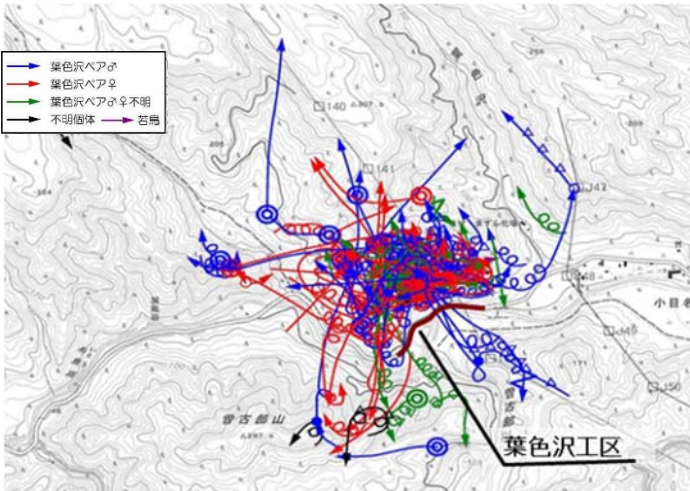
出典：「猛禽類保護の進め方」（改訂版）（2012年 環境省）

◆ 基本的な保全対策

- ・樹木の伐採、切土盛土等の土地の改変は猛禽類の生息に影響を与える要因となることから、樹木の伐採量、土地の改変面積は必要最小限に抑える。
- ・大きな騒音・振動は猛禽類の生息に影響を与える要因となることから、工事中に使用する重機類は低騒音・低振動型のものを用い、休憩時等はエンジンを停止する。
- ・工事現場内へ立ち入る工事車両及び、従事者を必要最小限にする。
- ・新たに改変した場所は工事終了後に可能な限りできるだけ速やかに復元緑化し、周辺環境との調和を図る。
- ・工事従事者に保全措置の趣旨を徹底させ、猛禽類の保全はもちろんのこと、工事改変箇所以外の周辺自然環境の保全も図られるようにマナー教育を行う。

◆ 着工前・着工後の飛翔図比較

調査は、1回/月、3日間の定点観察により行う。  
調査期間は、工事前の状況が把握可能な11月～工事期間中の3月までとする。  
繁殖の可能性があれば6月まで継続調査を行い、繁殖の有無、成否を把握する。



着工前：平成23年6月～平成24年6月のクマタカ飛跡図

着工後：平成25年11月～平成26年3月のクマタカ飛跡図

クマタカの過年度の繁殖状況

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
繁殖の有無	○	○	×	×	×	×	×

◆ 学識経験者からのヒアリング結果概要

～学識者～

古川 博氏（日本野鳥の会青森県支部顧問、おおせっからんど理事長）

着工前（平成20年11月6日）

- ・調査範囲は、対象工事の中心及び広範囲で観測をしてもらいたい。

着工後（平成26年3月13日）

- ・工事に対してそれほど気にしていない様子だったことについて了解した。このクマタカは、もともと正面にある貯木場や営巣木の近隣を通っている道路などにより、騒音や人の動きに慣れているものと思われる。

着工後（平成27年3月10日）

- ・工事に対してそれほど気にしていない様子というのは、騒音や人の動きに慣れているからだと思われる。
- ・出現頻度の比較から、工事の影響は見受けられず、工事を忌避している傾向は見受けられない。
- ・平成26年の繁殖の失敗は、育雛の初期段階で雛がハシブトガラスにおそわれた可能性が考えられる。
- ・最近の未繁殖・繁殖失敗は、ペアの老化が影響している可能性もある。
- ・今後の工事にあたって、検討している調査内容、保全対策で進めてもらえればよい。